



9月12日に救急セミナー  
「サリン事件とイラン・イラク戦争化学被害」が開催されました。  
講師には毒性学および生物兵器・化学兵器の世界的権威であるコロラド州立大学名誉教授 杜 祖健(Anthony Tu)先生をお招きしました。当院職員をはじめ、近隣の救急隊も多数参加いただき盛大に開催されました。講演は戦場での悲惨な状況など多くのリアルな写真を含めた内容で、講演後には多数の質問が飛び交い非常に有意義な時間でした。今も世界各地で発生し、日本でもいつ起こるかかわからない生物・化学テロや事故などにも対応でき、当地域の災害時に中心的役割を果たせるよう取り組んでいきたいと思っております。

講習会・イベントのご案内

岐阜県臨床研修病院合同説明会 医学生向け

全国の大学医学部の学生の方(何年生でもOK!)を対象に、岐阜県内22の臨床研修病院の出席によるガイダンスを開催します。  
日時:10月10日(月・祝) 11:00~17:00  
場所:じゅうろくプラザ 5階大会議室(JR岐阜駅前) 〒500-8856 岐阜県岐阜市橋本町1丁目10番地11  
主催:岐阜県臨床研修病院協議会 社団法人岐阜県病院協会 岐阜県

松波総合病院 がん患者会『絆』 患者さま向け

日時:10月25日(火) 11:00~  
場所:松波総合病院 3F講堂  
対象:当院に通院・入院治療中のがん患者さまとご家族、ご遺族、ご友人など。  
内容:患者さまはもちろん、ご家族やご友人の方々も皆様お誘い合わせの上、どんどんご参加下さい。みんなでお喋りしながら、お昼のひと時を過ごしましょう。  
テーマ:『ご存知ですか?高額療養費』  
講師:松波総合病院 医療福祉相談課 課長 津嘉山 隆  
注意事項:事前申込みや参加費は必要ありません。どなたでもお気軽にご参加下さい。開催時間内は出入り自由です。軽食や飲み物等を持ち込んで頂いても構いませんが、各自でご準備下さい。

かかりつけ医院のご紹介



羽島郡 赤座医院上印食診療所 内科 呼吸器科  
小児科 アレルギー科

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
午後4:00~7:00	○	○	○	○	○	○

院長: 赤座 壽  
地域密着型の「かかりつけ医」を目指しています。大病院との連携を重視します。睡眠時無呼吸症候群、禁煙治療、在宅医療にも力を入れております。

患者さまと  
病院をつなぐ  
かけはし  
No.144  
MATSUNAMI

# まつなみ

2011  
10  
発行  
社会医療法人  
蘇西厚生会

## 医療最前線 命を支える最新医療

### 「命の砦」救急医療センター

救急患者さまを断らない。  
その思いが救急の現場を支えている。

救急患者さまの受け入れ拒否が多発するなど、いま救急医療の崩壊が大きな社会問題になっています。こうしたなか、松波総合病院は「救急患者さまを断らない」をモットーに、24時間365日、いつでも患者さまを受け入れることができるよう、最善の努力を重ねてきました。  
では、地域の救急医療を守るために、現場ではどんな取り組みをしているのでしょうか。センター長として陣頭指揮を取る荒木恒敏先生に聞きました。



松波総合病院 救急医療センター長 荒木 恒敏  
専門分野:救急医学、外傷学、一般外科学、集中治療医学、災害医学、感染症学  
認定資格:日本救急医学会救急科専門医、日本外科学会専門医、日本外傷学会専門医 Japan Disaster Medical Assistance Team (日本DMAT:統括DMAT) インфекションコントロールドクター(ICD)

### 救急医療は時間との闘い。各診療科との連携プレーで診断・治療。

平成23年8月のある日。救急医療センターに救急隊からの電話が鳴りました。医師は救急隊員から患者さまの状況を聞き、どんな疾患なのかをある程度推定し、関連する診療科の医師と受け入れ準備。患者さまが運びこまれると、すぐさま救急医が初期診断と応急処置を行い、その後、診療科の医師と一緒に治療。落ち着いたところで、各科の病棟に入院。重篤な患者さまは引き続きICUで集中治療を行います。  
「救急の現場では患者さまの病態が劇的に変化するので、秒単位で診断、治療を行う必要がある。幸い当院には「急患を断るな」という昔からのモットーがあり、その思いを全職員が共有している。救急スタッフと待機医師、それを引き継ぐ専門治療スタッフとの連携がスムーズなので、迅速で的確な対応ができます」と荒木先生。固いチームワークと、病院全体で救急医療を支えるという思いが、現場を支えています。

軽症から最重症まで、年間2万人を受け入れています。  
松波総合病院救急医療センターは、岐阜・羽島・各務原および愛知一宮地区にまたがる救急医療を担当。荒木センター長を中心に、外傷外科医、集中治療医、脳神経外科医、内科医、整形外科医らが専従で対応。夜間も内科医2人、外科医1人、研修医2人の5人が当直するなど、24時間365日、救急患者さまを受け入れています。さらに、医師不足が深刻になっている小児科や



ときには救急車が重なってやってくることも。その時は大変ですが、チームの結束力と熱意で難局を乗り切ります。  
産婦人科の急患にも対応できる十分な体制を整えていること、また、形成外科を中心とした切断指・肢の再接着治療にも定評があることから、西濃、東濃、飛騨など遠方から患者さまが運ばれてくることも、当センターの特長になっています。ちなみに平成22年の全救急患者数は19,800人。うち救急車搬入が3,065人で、その多くが脳血管疾患、心疾患、交通事故、薬物中毒など、生命に関わる重症の患者さまです。

### 地域消防隊と信頼関係を築きプレホスピタルケアをサポート。

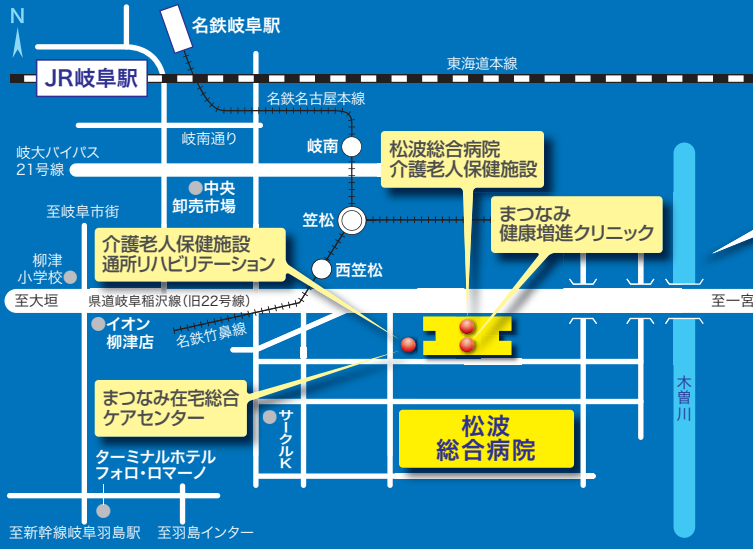
一分一秒を争う現場では、救急隊員との連携も不可欠です。そのため、当センターでは日頃から救急医療に携わる医師や看護師、救急隊員が顔をあわせ、症例検討会や意見交換会、救急活動記録の事後検証、さらには救急救命士の育成に力を注ぐなど、お互いに顔の見える関係づくりを心がけてきました。それがプレホスピタルケア(急病人などを病院に運び込む前に救急現場や救急車内で行う応急手当て)のレベルアップにつながり、結果として命を救うことに結びついています。

### 大震災や大事故に備えて、研修や訓練も実施。

自然災害における医療活動も当センターの大切な任務。大災害の発生に備えて、病院をあげて準備や訓練の強化に努めています。また、当院は日本DMAT(災害時に活動できる機動性を持った医療チーム)を有し、かつ岐阜DMATの指定病院です。日本中を震撼させた3.11の東日本大震災では、医療チームを2チーム(計10名)を派遣し、被災地での救護活動に取り組みました。

### 救急は「命の砦」。これからも、全力で地域の医療を守りたい。

常に緊張感を強いられ、時には丸2日間ぶっ通しで診療を続けることも求められる救急医療。荒木先生にとって、救急医療の魅力は、「救急医の瞬時の判断によって患者さまの容態が劇的に変わり、命が助かるという結果が目に見えて出る」こと。交通事故で心肺停止状態で運ばれてきた患者さまが治療後に社会復帰を果たし、17年経った今も病気の相談をしてきたり、「新しい命をもらって10年目です」などという便りが届いたり、それが医者としてのやりがいや喜びにつながっているといいます。そんな荒木先生の今後の抱負は、「救急としてのパワーをさらにつけて、より高度な救急医療を提供し、ひとつでも多くの命を救いたい」。それはまた、当院の全医師、全職員の変わらぬ思いでもあります。



お気軽にお問い合わせください。  
058-388-0111  
http://www.matsunami-hsp.or.jp/  
社会医療法人蘇西厚生会  
松波総合病院 〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町田代185-1



「こんにちは 東6階病棟です。」

## 親身な看護で患者さまを支え、笑顔を取り戻したい。

東6階は、形成外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科という多くの診療科を抱えた外科系の混合病棟です。ベッド数は44床。総勢34名の看護職員



が、患者さまが安心して手術や処置などの治療をうけられる環境を整え、日々変化していく病状に合わせて看護を行っています。

看護師長 狩野 雅道

1ヶ月に200~250人と、入退院が多いのが特長です。

主な疾患としては、形成外科では顔面の外傷や骨折、手指の外傷、眼瞼下垂。特に切断指の再接着では数多くの実績をもち、緊急手術で入院される患者さまが多いことも当病棟の特長です。皮膚科ではヘルペスや重症皮膚炎、泌尿器科では前立腺炎、前立腺がん、膀胱がん、尿管結石。特に最近、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」による前立腺がんの摘出手術に成功したことから、今後はロボット支援手術を選択する患者さまが増えることが予想されます。眼科では白内障、耳鼻咽喉科では急性扁桃炎などの手術を対象とする患者さま。耳鼻咽喉科では専任医師が1人から3人体制になったことから、今後は手術件数が増えてくると思います。入院、転棟、退院と、患者さまの入れ替わりが激しい中、私たち看護師はベッドコントロールしながら、患者さまやご家族の不安の軽減に努め、少しでもミスがないよう頑張っています。

### クリニカルパスを活用して患者さまと医療者が情報を共有

手術目的で入院される患者さまが多く、また入退院数も多い中、安心して手術を受けていただけるよう、病棟ではクリニカルパスを活用。医師、看護師はもとより、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、ケースワーカーなど患者さまに関わる医療スタッフ全員が情報を共有し、安全で質の高い医療、迅速な診断と治療につなげています。もちろん、患者さまとご家族にもクリニカルパスをお渡しし、できるだけわかりやすい言葉を使って、今後の予定や注意点



などを説明するようにしています。患者さまにとっても、これを見ると治療のゴールまでの段階が一目でわかり、納得して診療や術後の創ケアを受けていただくことで、早期退院に結びついています。

	01/09	01/10	01/11
外来	外来	外来	外来
	3回の飲み薬	1日に3回の飲み薬を	1日に3回の飲み薬を
3種類を3回に飲む	目薬3種類の点眼回数が1日に4回に変わります	目薬3種類を1日に4回点眼してください	目薬3種類を1日に4回点眼してください
外来で診察があります	視力検査と眼圧検査を眼科外来で行います	眼科外来で診察があります	眼科外来で診察があります

白内障のクリニカルパス。入院から退院までの間、いつどんな検査や治療・手術を行うかがスケジュール表にまとめられています。食事や入浴、薬の飲み方、日常の注意点なども書いてあります。

### チームワークを大切に患者さまに最善の看護を提供したい。

当病棟には様々な疾患・症状のある患者さまが入院されているため、幅広い知識、技術が必要とされます。私たち看護師も、それぞれの科の看護の専門性を高めるために、症例検討会や研修会に参加し、情報交換を行いながら知識・技術を高めることを心がけています。最近行われた手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を使った前立腺がんの手術では、最先端医療の実際にふれることもできました。そんな私たちのモットーは、「常に相手の立場に立った看護を提供すること。患者さまが何を言いたいのか、何をしてほしいのかを考え、心を込めて行動したいと思っています。多忙な毎日を送っていますが、お互いを認め合って協力し合える病棟風土もある



患者さまの「ありがとう」や「笑顔」に支えられ、毎日を頑張っています。

ので、今後はチームワークをさらに高め、患者さまに満足していただける看護を提供したいと思っています。

## 残暑中に盲点となりやすい病気

### 血液ドロドロと脳梗塞

暑い中で起こりやすい病気の一つに脳梗塞があることをご存知でしょうか。厳しい暑さの中、汗をたくさんかくことで脱水症となり血液がドロドロになります。血液ドロドロの状態は血の塊(血栓)ができやすくなり、できた血栓が頭の血管に詰まることで脳梗塞になってしまいます。また、血液ドロドロになることで血液の流れが悪くなります。首、脳の血管に正常よりも細い部分があり血流が悪くなっていると、血液ドロドロで血流がさらに悪くなり脳梗塞になってしまうのです。高血圧、糖尿病など生活習慣病をお持ちの方は動脈硬化により、首、脳の血管が

細くなっていることがあり要注意です。脳梗塞は予防が重要で、猛暑の中に脳梗塞にならないためには脱水症すなわち血液ドロドロの状態にならないことが大切です。そのために、厳しい暑さの日には水分をこまめにとりましょう。また、首、脳の血管は細いだけでは症状はありません。そのため、検査を行って早期発見、早期治療することが大切です。当院の脳神経外科では首、頭の血管の検査、治療を多く行っております。ご心配の方は当院脳神経外科にご相談ください。厳しい残暑が続きますが、体調管理にくれぐれもご注意ください。

脳神経外科 田邊 淳  
所属学会：日本脳神経外科学会  
日本脳神経外科コンgres  
日本脳血管内治療学会  
日本集中治療医学会  
日本化学療法学会



安藤管理栄養士が  
お届けする

## 体にeヘルシーレシピ

### 旬の鯖を使用したレシピ さばと小松菜のオイスター炒め

- <材料・2人前>
- ・さば(三枚におろしたもの) …… 1/2尾分
  - ・小松菜 …… 150g
  - ・しめじ …… 50g
  - ・にんにく …… 1かけ
  - ・サラダ油 …… 大1と1/2
  - ・オイスターソース …… 大1
  - ・酒 …… 大1/2
  - ・塩 …… 少々
  - ・塩、こしょう、小麦粉 適宜

- <作り方>
- ①小松菜は長さ4cmに切り、さばは骨があれば骨を抜き、3~4cmのそぎ切りにし、塩、こしょうを少々まぶし下味をつける。
  - ②Aの調味料を合せておく。さばの水けを拭き小麦粉を両面にまぶす。
  - ③にんにくは縦に半分に切り、しんを除いてつぶす。
  - ④フライパンにサラダ油大さじ1をひき、さばを入れて焼き色をつける。
  - ⑤いったん取り出し、フライパンをさっと拭き、にんにくを入れて炒める。香りがたってきたら小松菜と一緒に炒める。
  - ⑥全体に油がなじんだら、さばを戻し入れAで調味し、さっと炒める。

※にんにくは炒めすぎて黒くなると、苦くなりますので注意してください。

### ！ここがヘルシーポイント！

この時期のさばは「秋さば」といい、脂がのって一段とおいしさがあまります。この脂は血液をサラサラにする効果のあるエイコサペンタ酸(IPA)とコレステロールや中性脂肪を減らす働きをするドコサヘキサ塩酸(DHA)が含まれており、お勧めです。

## くすりのお話し



### ジェネリック医薬品をご存知ですか？

テレビCMなどでジェネリックという言葉聞いたことがある方も多いと思います。新しい薬は10~15年の歳月と、数百億円以上の費用をかけて開発され、製薬企業は発売後約20~25年間特許を受けることができます。しかし、特許が切れると他の企業も同じ成分の効果が全く同じ薬を作ることができるようになります。これがジェネリック医薬品(後発医薬品)です。ジェネリック医薬品は、新薬に比べて研究開発にかかる時間と

お金が少なく済むため、効き目が同じでも値段が安くなります。また、安いだけでなく、錠剤の大きさを小さくしたり、口の中で溶けるようにするなど、飲みやすいように工夫してあるものもあります。ジェネリックに変更するにはまず主治医、かかりつけ薬局の薬剤師に相談しましょう。薬代の負担が軽くなり、さらに国の医療費削減にも貢献できますよ。血圧の薬やコレステロールの薬など長期間飲み続ける薬の場合は特におすすめです。